

大日本コンサル
20年6月期決算

過去最高の業績

研究開発費25%増額



新井社長

大日本コンサルタンの2020年6月期決算は、連結ベースで受注高と売上高、利益が過去最高を記録した。国内外で高採算業務を受注し、生産性向上に注力したのが奏功した。21年6月期は新型コロナウイルスの流行に伴うリスク低減を目指し、海外人材を国内

にシフト。橋梁保全や国土強靱化関連で収益拡大を狙う。研究開発費を前期比で25%増額し、技術開発や人材育成に充てる。

2日に東京都内で開いた20年6月期決算説明会で新井伸博社長が今後の事業戦略を明らかにした。新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）によって一部業務で中止や遅延が発生した一方、ICT（情報通信技術）ツールを活用した業務効率の改善や高採算の業務受注が業績を下支えした。連結業績のうち受注高は1

90億69百万円（19年6月期比13・3%増）。売上高は165億3百万円（4・9%増）、営業利益は16億24百万円（31・5%増）だった。

21年6月期の事業戦略によると、国内は橋梁保全や国土強靱化、エネルギー分野で受注を積み上げる。渡航制限などで先行き不透明な海外について、新井社長は「海外人材の半数（約15人）を国内に振り分ける。同時に研究開発費（約1・2億円）も25%増額する」とコメント。デジタルトランスフォーメーション（DX）を活用した技術開発、ICTなどを使いこなす人材育成を進め、コロナ禍の影響を最小限に抑える。